

『MMを通して社会を学ぶ』

【京都教育大学 教授 水山 光春】

一般に、学校で「社会」について学ぶとき、その学び方には大きく分けて次の三つのスタイルがある。

- ①：社会のしくみや構造，価値観，問題点等について理解し，知識として蓄える。
- ②：①にとどまらず。①の問題点について，選択し，判断し，意思決定する。
- ③：②にとどまらず，積極的に社会に働きかけ，参加・参画していく。

①～③は，個人的な問題解決から集団的な問題解決へと，その共同（協働）性を高めていく。つまり相手のあることなので，その実行・実現は困難となっていく。例えば，電気・エネルギー問題に関連して原子力発電を主題として扱ったとしよう。なぜ，福井県や福島県に原子力発電所が多く立地しているのか，その理由を考えるのは①である。また，①で学びが終わってしまうと，たとえ小学生といえども満足しない。しっかり学べば学ぶほど，今後も継続すべきか，それとも廃止すべきかを議論したくなる。これは②である。ここまではなんとか個人で可能であったとしても，では③となると，小学生や中学生の子どもにできることは限られている。せいぜい「無駄な電気は使わない」「こまめに照明の電気を消す」くらいしかない。

しかし，MM となると話は違ってくる。例えば地域の交通事情を主題とするとき，なぜ幼児やお年寄りを巻き込んだ交通事故が多いのか（①），事故を減らすために信号機や横断歩道を新たに設置すべきか（②），設置した方がよいと判断したとして，それはどこに設置すればよいか，そのためにどこにどのように働きかけていくか（③）等々，MM には，子どもたちにとって身近に学べること，できることが多くある。

社会的なことがらについて，①～③までを含んで，小学校1年生から高校生，大学生まで，深くも広くも学ぶことができる主題はそうそう多くない。かつて「地方自治は民主主義の学校」と呼ばれた（それだけ地方自治には民主主義に関連して学ぶ場面が多い）が，今，「MM は社会の学校」と言ってよいのではないか，それだけの可能性が MM にはあると思うし，今後の発展に大いに期待している。